



### わたしはおねえちゃん

矢部小1年 坂本 ひなたさん  
保育園のときに、おかあさんから「おねえちゃんになるんだよ」と言われて、私はうれしくなってお母さんに抱きついた。だんだん大きくなるお腹を抱えて仕事にがんばるお母さんが心配になったけど、

笑顔で「だいじょうぶだよ」と答えてくれたお母さん。1年生になって、妹が生まれた。学校でみんなに「あかちゃんが生まれたよ」といった。しばらくしてあかちゃんが家にやってきた。泣きそうな妹に歌をうたってあげた。泣きやんでうれしくなった。これからもいろんなお世話をしたい。



### まちにまっつた田植え

御岳小2年 村上 直弥さん  
田植えの手伝いをした。田んぼについたら、お父さんから空になった育苗箱を運ぶように頼まれた。「きついなあ」と思いながら、何回も運んだ。するとおじちゃんが田植え機に乗せてくれた。昼ごはんを食べてから

も僕は苗運びや空箱を、何回も運んだ。そして、今年の田植えが終わった。お父さんから「なおよが一番がんばった」と褒められた。また来年も手伝おうと思った。田植えのあと、大雨が降り、田んぼに川の水が入った。僕は米がなくなるかもしれないと思い、田んぼの水が早くなくなればいいと思った。



### 大切な家族

#### 70頭の牛さんたち

矢部小3年 梅田 結衣さん  
私の家では70頭の牛を飼っている。牛は体が大きく、目も大きくて、まつ毛も長いのでとってもかわいい。普段は、じいちゃんとかあちゃんとお母さんが牛の世話をし、休みの日は私もお手伝いを

する。えさをやったり、水をやりたり。おいしそうに食べているの、牛が産まれた。子牛が私に触ろうとすると、お母さん牛が角で「やめて」というように押す。わたしは「やっぱりお母さんだなあ」と思った。私は子牛と遊ぶのが大好き。私の家族は7人ですが、70頭の牛さんも大切な家族です。



### 母の日のプレゼント

中島小4年 永野 眞愛さん  
おばあちゃん、毎朝4時半に起きて、畑にでて野菜を取ります。そのあとを私のお弁当を作ってくれます。夕方は、私をバス停まで迎えにきてくれ、そのあと夕御飯を作ってく

くれる。そんなおばあちゃんに母の日のプレゼントを買いに行ったら、私は、立ったり座ったりするとき足が痛そうだったので、回転するイスを選んだ。お父さんもそうしようと言った。「ありがとう。たすかったたい。」おばあちゃんが喜んでにこっと笑ってくれたので、私もうれしかった。



### 家の手伝い

御岳小5年 橋本 凜汰郎さん  
僕の家は農家。おばあちゃん毎日畑に行くと、お父さんは毎日田んぼに行くと水を見ています。僕の家では、お茶とお米を作っている。休みの日は農作業の手伝いをする。とて

もきつい。でもアドバイスをもらいどんどん上達するので楽しい。ほくは、毎年こんなきついことをやっているお父さんとおばあちゃんはずいと思ふ。いつか後を継いで楽をさせたい。そして、小さな子どもも食べられるような新種を開発して、たくさんの人に野菜を食べてもらいたい。



### 僕が修学旅行で学んだこと

矢部小6年 藤本 大心さん  
「戦争は最大の差別。これは、修学旅行先の長崎で聞いた、被爆体験者の言葉。戦争は差別を生み出す。人間の大切なもの、命、家族すべてをなくしてしまう。僕は写真などを見て改めて戦争は許せないと感じた。僕は、戦争

がなくなるように自分ができることをがんばりたい。長崎ではその勇気をもらった。まずは僕が変わりませ。その一つとしていろんな友達と遊んで、よいところをどんどん知ろうと思う。戦争は、身近なけんかや気持ちのすれ違いから始まると気付かないけど、何年後にかなうかわからないけど、僕は全世界の平和を願う。



### 被災地のがれきの今

矢部中2年 藤原 尚史さん  
東日本大震災から1年がたった今でも被災地は多くの問題を抱えている。北九州市で被災地のがれきを受け入れるという報道を聞き、とても勇気のある決断だったと思った。しかしその数日後、ある小学校が北九州市への修

学旅行を中止したという報道があった。悲しくなったが、中止した側にもいろんな理由がある。このようにときもつと被災地について知らなければならぬと思う。ある日、がれきを防波堤にするニュースを見た。これが広がってほしい。僕はこの大地震で今までよりさらに、家族や友達を大事にしようと思った。



### 青少年健全育成町会議主催

生活作文発表会（矢部地区・8/17・千寿苑）  
青少年意見発表会（蘇陽地区・8/23・蘇陽総合支所）  
矢部地区と蘇陽地区の青少年健全育成会議が主催した、子どもたちの意見発表会と作文発表会が開催されました。

※ 各発表者の文章は原文のままではなく、主な内容として要約して掲載しています。

### 講演会（蘇陽地区） 「笑って元気な家族のWA・学校のWA・地域のWA」

矢野大和氏（NPO全国生涯学習まちづくり協会理事）  
蘇陽地区の意見発表会の後、記念講演会が行われました。講演会ではなく「口演会」といった様子。矢野さんの住む大分県

宇目町の小学生たかくんは、毎日朝早く家を出る。地域の高齢者が呼び止め話しかけるからだという「たかくんの通学路」という噂。数々の笑話のなかに、地域コミュニティの大事さが伝わります。矢野さんは「子どもは個性は基礎の上にある。まずは家の中からあいさつを」と呼びかけました。



### お父さんはすごい

蘇陽中2年 米倉 彰洋さん  
「きついな」と思ったら農業はできない。宿題で仕事について聞いた時の父の言葉をすごいと思った。父は牛の世話を365日行っている。雨の中田植えで風邪を引こうが農作業を休まない。稲刈りが終われば来年に備

えて田んぼにたい肥をまく。なんでそこまでがんばれるのだろうかと思う。たまに農作業を手伝ってみて、大変な思いをしてできる米だというありがたさを実感する。尊敬する父のように、仕事をがんばれるようになるために、学校や家庭で言われることをよく聞き、感謝されるようにがんばりたい。



### 人権学習から学び感じたこと

蘇陽中1年 片倉 羽七さん  
人の記憶には恥ずかしかったこと、つらかったことなどは永く残る。中学校の人権学習で水俣病について水俣病研修者の話を聞いた。「患者さんだけが普通に生活できるように努力しても、周囲の

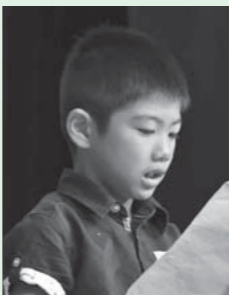
人々が協力しなければ意味がないので、決して他人事ではない。」という話を聞いて、みんな考えていかなければならないと思った。差別するのは相手のことをよく理解していないから。言ったり行動したりする前によく考えて、言ったことには責任を持つことが大切だと思ふ。



### 母からの「ありがとう」

蘇陽中3年 深田 知空さん  
我が家では家事は比較的分担しているが、洗濯や料理など主なものはやはり母が行っていた。最近母は仕事が忙しく帰るのが遅くなるのが多くなったので、食器洗いなどを頼まれるようになった。でも、私は自ら進んで

やることはなく「してあげている」という感覚があった。しかし、常に母は「ありがとう」と笑顔で言ってくれた。弟にも母はありがとうと言っていることに気づいた。でも感謝するのは私たち家族ではないのかと感じた。普段感謝の言葉を伝えていないことを恥ずかしいと思ふ直し、母にも感謝を伝えようと思ふ。



### パッパへいっばい いっばいありがとう

蘇陽小2年 春木 宏亮さん  
ある日家に帰ったらおばあちゃんが「パッパが亡くなった」と教えてくれた。パッパはほくのひいばあちゃん。びっくりした。とてもやさしかったパッパ。いっばいかわいがってくれた。亡くなった

パッパの顔を触ると、生きているときは温かっただけ冷たくなっていった。お葬式では、パッパの顔や今までのことを思い出してとても悲しくなり、たくさん涙が出た。パッパはいつもみんなにありがとうと言っていた。これからは大きな声で「ありがとう」と言えるようになりたい。いままでも、いっばい、いっばいありがとう。



### 環境にいいことをしよう

蘇陽南小5年 田中 隆嶺さん  
県立環境センターに行き、ゴミの分別やリサイクルの大切さを学んだ。今、ゴミの量が増え、埋め立ての場所が減っている。みんなが3R「リデュース・リユース・リサイクル」を意識して生活するとゴミの量

を減らすことができる。残念だが蘇陽地区にもゴミを見かけられる。安易にゴミを捨てる人はこれからの事を考えていないし、心がない人だと思ふ。3Rとともに、まずはゴミを出さない生活・減らす生活を考えないといけないと思ふ。ほくも地球のためにゴミを減らす工夫や努力を続けたい。



### 水俣病を学んで

蘇陽小5年 山邊 健太さん  
5年生の宿泊学習で水俣病を勉強した。患者さんを救うためにいろいろな抗議活動を行った方の苦しい体験を、語り部の方から聞いた。仲間から裏切られながら、さらに家族も水俣病になるなかでも自分の信念を貫

き、患者さんを助けようと活動を続けたことはすごいと思ふ。そのことでたかくんの患者さんが救われたと思ふ。ほくは自分の主張をすることができず、周りの意見に流されることがある。でもこれからは、自分の言葉で「正しいことは正しい。悪いことは悪い」と誰にでも言うようになる。正しい。



### 菅尾小閉校と 蘇陽南小閉校への思い

蘇陽南小6年 安武 多恵さん  
菅尾小学校が閉校した。閉校式典では、涙される地域の方々や卒業生の方々の思いを感じた。思い出を語った菅尾小にありがとうと言いたい。4月に閉校した蘇陽南小の開校式で初めて校歌

を歌った。「歴史新たに紡ぐ学舎」という前向きな歌詞が心に残った。蘇陽南小では、友だちが残ったり、先生も増えたりして、うれしいこともたくさんある。私たちは第1回の卒業生。これから歴史を重ねる最初の1年でとても大切な1年。3校の良さを活かして素晴らしい学校にしたい。